

クラブ ファンタジー 推薦コンサート

那須姉妹奨学金受賞記念

*Youki Bessho*  
*Piano Recital*

別所ユウキ ピアノリサイタル

2010. 9. 28 (火)

開演 PM7:00 開場 PM6:30

兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

主催 クラブ ファンタジー (神戸女学院大学音楽学部同窓会)  
協賛 神戸女学院大学音楽学部

# Message

クラブ ファンタジー会長 岡田晴美  
神戸女学院大学名誉教授

今宵はクラブ ファンタジーの第1回推薦コンサートにお出かけ頂きまして誠に有難う存じます。

那須姉妹奨学金をご提供くださいました那須美恵子先生（女48回、M53回）は、私共が音楽科（現音楽学部）の学生時代、ピアノ科の助教授で、朝日会館でのコンサートにも出演される憧れの先生でいらっしゃいました。佑子先生（女58回、M62回）は何時もヴァイオリンを携えてお歩きになるお姿に、私達は勿論、他大学の男子学生も憧れていたものでございました。お二人がシカゴに移られて研究を続け、現在も教授活動をなさって、Ernesto Braucher, The Ying Quartet（3兄弟と妹）など、国際舞台で活躍する多くの演奏家を育て上げ、ピアノコンクールでも毎年優勝者を輩出されて音楽に情熱を注ぐ生活でいらっしゃいます。また常に母校、神戸女学院のことに心をお配りくださいます。この奨学金が誕生いたしました。

クラブ ファンタジーは、この度、第1回推薦コンサートとして那須姉妹奨学金を受賞された別所ユウキ（M123回）さんのリサイタルを開催することになりました。彼女の学生時代に実技最優秀の「ハンナ・ギュリック・スエヒロ記念賞」と、卒業時には総合成績最優秀の「クラブ ファンタジー賞」を受賞されたからでございます。

今後の別所さんのご研鑽とご活躍を期待し、音楽学部の発展を祈り、卒業生の皆様方のご協力に感謝致しまして、本日のご挨拶とさせていただきます。

神戸女学院大学音楽学部長 澤内 崇

本日はお忙しい中「別所ユウキピアノリサイタル」にご来場いただき誠にありがとうございます。

このコンサートは、クラブ ファンタジーの主催による「那須姉妹奨学金」初受賞者帰国記念リサイタルです。「那須姉妹奨学金」は、神戸女学院大学音楽学部卒業生で本学の教師としても活躍され、90歳を超えた現在も米国シカゴにおいて音楽教育を続けておられる那須美恵子、佑子両先生の母校に対する熱い思いから設けられました。主旨は、「音楽学部卒業生で、特に将来を嘱望されている者の海外留学を支援し、神戸女学院の将来に寄与できる人を育てる」というものです。受賞者の別所ユウキさんは、2006年本学を「ハンナ・ギュリック・スエヒロ記念賞」「クラブ ファンタジー賞」という実技、学科の首席に授与される両賞を受賞し卒業された後、ベルギー王立音楽院に留学し、熱心に研鑽を積み、歴代最高点の首席という輝かしい成果を挙げて留学を終えられました。本日は、別所さんの大きく成長された姿を見ることができると、私を含め多くの人が楽しみにしています。

最後になりましたが、このコンサートを企画、実現していただいた岡田晴美会長をはじめクラブ ファンタジーの皆さまの、大きく温かいご支援とお心配りに深く感謝すると同時に、この奨学金を創設していただいた那須ご姉妹に、心からお礼を申し上げます。

# Program

ハイドン  
Haydn

ソナタ 二長調 Hob. XVI-37  
Sonata in D Major Hob. XVI-37

- I Allegro con brio
- II Largo e sostenuto
- III Finale : Presto ma non troppo

ベートーヴェン  
Beethoven

ピアノ・ソナタ 第21番 八長調  
作品53「ヴァルトシュタイン」  
Piano Sonata No. 21 in C Major Op. 53 "Waltstein"

- I Allegro con brio
- II Introduzione : Adagio molto
- III Rondo : Allegretto moderato — Prestissimo

————— 休憩 Intermission —————

ドビュッシー  
Debussy

喜びの島  
L'isle joyeuse

ラヴェル  
Ravel

クーブランの墓  
Le tombeau de Couperin

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 1. 前奏曲<br>Prélude    | 4. リゴドン<br>Rigaudon |
| 2. フーガ<br>Fugue      | 5. メヌエット<br>Menuet  |
| 3. フォルラーヌ<br>Forlane | 6. トッカータ<br>Toccata |

ラヴェル  
Ravel

ラ・ヴァルス  
La valse

# Profile



## 別 所 ユウキ

大阪府に生まれる。幼少期をヨーロッパで過ごし、11歳の時、最年少でベルギー・ブリュッセル王立音楽院への入学が許可され、一年後に一等賞を得る。2006年神戸女学院大学音楽学部を首席で卒業。中野慶理、S. ミルシュタイン両氏に師事。クラブファンタジー賞、及びハンナ・ギュリック・スエヒロ記念賞を受賞。卒業後、いずみホール、ベルギーフランドル交流センター、東京文化会館などにて各新人演奏会に出演し、2006年よりベルギー・ブリュッセル王立音楽院に留学。Jean-Claude Vanden Eynden氏に師事。以来、日本・ヨーロッパにおいて数々の演奏会に出演、リサイタルの開催をする。BBC Wales 交響楽団、Tournai 管弦楽団などと共演。これまでに、全日本学生音楽コンクール大阪大会、日本演奏家コンクールなどに優勝、イギリスにてニューポート国際音楽コンクール第3位及び審査員特別賞受賞、ベルギーにてコンクール・エクセレンシア及びアンドレ＝デュモルティエ国際音楽コンクール第2位入賞などを果たす。2008年にはベルギー・ファビオラ女王の御前演奏を行う。留学中はベルギー政府フランス語圏奨学金、ベルギー・シヨパン財団奨学金、Centre Musical Eduardo Del Pueyo 奨学金、私人ピアニスト Philippe Cassard氏より特別賞、また2009年度神戸女学院大学より那須姉妹奨学金を得て、研鑽を積む。2010年ブリュッセル王立音楽院マスター課程を首席で修了。卒業後ベルギーにて演奏活動を行い、夏季音楽フェスティバル MIDIS-MINIMESでは3日連続リサイタルが開催され、好評を博す。9月に帰国し、活動を始める。

# Program Notes

神戸女学院大学音楽学部非常勤講師 生島 美紀子 (M92)  
「大澤壽人資料プロジェクト」代表

## ハイドン ソナタ ニ長調 Hob. XVI-37

ハイドン (Franz Joseph Haydn, 1734-1809) による鍵盤楽器のためのソナタは数多く、60曲を越す。18世紀後半は、王室や教会のおかかえを離れた「芸術家」という職業が社会に確立しておらず、ハイドンの多くの作品も仕える貴族達のために創作された。

《ソナタ ニ長調》の作曲時期は1780年1月以前といわれ、3つの楽章から構成されている。装飾音符が特徴的なソナタ形式による第1楽章と、無邪気な印象を与えるロンド形式による第3楽章。

——これらの快速で明るい楽章に挟まれた第2楽章は、わずか19小節ながら、同主短調による旋律が内面性を強調して際立った対照を生んでいる。

## ベートーヴェン ピアノ・ソナタ 第21番 ハ長調 作品53「ヴァルトシュタイン」

ベートーヴェン (Ludwig van Beethoven, 1770-1827) は、生涯に亘ってピアノ・ソナタを創作した。23歳の時にハイドンに献呈された第1番から、52歳の時にルドルフ大公に献呈された第32番まで、作曲様式の変遷を生き生きと映し出すジャンルである。

1803-4年に作曲された《ピアノ・ソナタ ハ長調》作品53は、3期に分類される様式の「中期」を代表する作品で、後援者だったヴァルトシュタイン伯爵に捧げられた。この頃ベートーヴェンは、フランス人ピアノ製作者エラルから最新型ピアノの寄贈を受けており、音域の拡大・音量の増大・ペダルの改良という楽器性能の向上が、中期におけるソナタ様式の追求に大きく影響したといわれる。

主和音の連打が最弱音で響き始める第1楽章。中音域から低音域でゆったりと歌われる第2楽章。切れ目なく続いて急速なコーダで締めくくられる第3楽章。——時に「あけほの」と称されるこのソナタは、冒頭の混沌状態が終楽章に向かって昇華されてゆく深い精神性を感じさせる。

## ドビュッシー 喜びの島

「ヴァルトシュタイン」から時を経ること1世紀。ドビュッシー (Claude Achille Debussy, 1862-1918) の《喜びの島 L'isle joyeuse》は1904年に作曲され、翌年ラヴェルの友人として知られるR・ヴィニエスによって初演された。

作品はロココ美術の画家、ワトーが1918年頃に描いた「シテール島への船出」に創作上の刺激を受けたと伝えられる。絵画の旧題は女神ヴィーナスの「愛の巡礼」であったが、ドビュッシーの音楽も同様に、豊潤且つ香しいばかりである。その華やかな響きを創り出しているのは極めて精緻な音高や音域の選択、自由なリズムをもった多彩な音型で、装飾音に始まり、独特の全音階を基盤としつつ要所には伝統的な長／短三和音が配され、茫漠と澄明が混然一体となって流麗な音響を創り出している。

## ラヴェル クープランの墓

「管弦楽法の魔術師」と言われるラヴェル (Maurice Ravel, 1875-1937) が、その腕をいかになく発揮する分野が編曲である。有名な《展覧会の絵》の管弦楽用編曲を例とするように、作曲家はピアノと管弦楽という異なるジャンル間を自由に行き来した。

《クープランの墓 Le tombeau de Couperin》は、1914-17年に作曲されたピアノ作品が原曲で、「ロン・ティボー・コンクール」に名を残す女流ピアニスト、M・ロンが第一次世界大戦後の1919年に初演した。1. 前奏曲 2. フーガ 3. フォルラーヌ 4. リゴドン 5. メヌエット 6. トッカータ から成り、それぞれがラヴェルの友人だった戦没者に捧げられている。

同時に、17-18世紀にルイ14世の宮廷を舞台に活躍した作曲家、F・クープランへの賛美の作品であり、各曲が明確な古典の様式を示し、全体も伝統的な組曲を成している。

## ラヴェル ラ・ヴァルス

「管弦楽のための舞踏詩」という副題を持つ《ラ・ヴァルス La valse》は、S・ディアギレフが主宰するロシア・バレエ団の委嘱を受けて1919-20年に作曲された。ウィーンの舞踏会における華やかさの一方に暗い影も感じさせる大ワルツで、翌年には2種類のピアノ用編曲（独奏用と二台ピアノ用）が出版された。

舞踏の観点からは、ピアノ原曲から管弦楽用に編曲されたもう一つの大ワルツ、《高雅で感傷的なワルツ》も1910年代に生まれており、当時のラヴェルの関心が窺われよう。

冒頭は低い音域から微かに始まり、やがて興ずる人々が姿を現し、最後は陶酔と熱狂に包まれて終わる。この過程を描くべく、作品は幾つかの特色を示している。——管弦楽作品の音色や音量をピアノに反映して、テクスチャが豊富である。シャープ系とフラット系の調が異名同音の読み換えによって頻繁に交替して、舞踏会の爛熟ぶりを描く等々、ピアニストに対して、楽譜への洞察力と同時に、ヴィルトゥオーソ的な演奏技術の研ぎを要求する大作である。

#### クラブ ファンタジー

神戸女学院大学音楽学部は1906年に開設されました。その卒業生の会としてクラブ ファンタジーが1951年に発足致しました。本会は会員相互の研究及び親睦と交流を目的としています。